

活動分野	森に親しむ野外講座		
タイトル	東大富士癒しの森と北口本宮富士浅間神社		
実施日時	平成29年7月18日(火) 7時半～19時		
実施場所	山梨県南都留郡山中湖村・富士吉田市		
受講者	41名	FIC会員他スタッフ	8名

活動の内容

山中湖のほとりにある東大演習林富士癒しの森研究所では、富士山麓特有のマメザクラやサンショウバラ、100年近く前に植林されたカラマツ、かつて灯油として利用されたアブラチャンの実、食べ痕でリスかネズミのどちらに食べられたか分かるオニグルミの実、滑らかな樹皮のヒコサンヒメシャラ、ミツバウツギのプクッと膨らんだ実、一度切ったのに根が地面につながって復活したツタウルシ、萼片が1枚のイワガラミの花など、たくさんの興味深いもの、面白いものを見つけました。間伐割合の違いにより、癒しに関する各種データを蓄積している実証林も見学し、森林の保健休養機能に着目した教育研究活動について学びました。薪棚をモチーフにした東屋のある湖畔広場で昼食をとったあと、草笛で「富士の山」のメロディを練習しました。



左はネズミ、右はリスに
食べられたオニグルミ



イワガラミの花



サンショウバラ
の観察



湖畔広場でくつろぐ

午後は山中のハリモミ純林に移動し、貴重な純林が台風や環境の変化で衰退してきた様子に心を痛めました。道の駅富士吉田に立ち寄った後、富士山世界遺産構成資産の一つで、1900年の歴史がある北口本宮富士浅間神社へ。富士太郎杉など圧倒されるような巨木が多く、国指定重要文化財の社殿もある境内を歩きながら、富士山信仰の歴史に思いを馳せました。



ハリモミを触って、「痛っ！」



日本最大の木造鳥居



富士太郎杉と本殿